



八幡浜消防広報

八幡浜地区施設事務組合消防本部 令和3年 Vol.8
TEL : 0894-22-0119 / FAX 0894-22-5227

いざというときのために！

応急手当の知識と技術を

勇気を出して手を差し伸べる

あなたの行動が救命のカギ！

応急手当講習を受講しましょう！

傷病者を救うためには、何よりもまず多くの人が応急手当の知識と技術をもつことが必要です。

いざというときのために、消防署の講習会に参加して応急手当の知識と技術を身につけておきましょう。



e-ラーニングで応急手当の基本を学べます
「一般市民向け 応急手当WEB講習」

応急手当講習会に行く時間がないという方！
インターネットにつながる環境があれば、パソコンやタブレット、スマートフォンで、だれでも好きな時間に応急手当の基礎知識を学ぶことができます。

一般市民向け
応急手当WEB講習

消防庁ホームページ
<http://www.fdma.go.jp/>

応急手当てにより救命された事例

サッカーの試合中に倒れた男性を、チームメイトが心肺蘇生とAEDによって救命した事例

サッカーの試合中に約1～2mの至近距離から相手選手が放ったシュートを、20歳代の男性が体を張ってディフェンスした際に、ボールが胸を直撃しました。その後立ち上がりましたが、すぐ前のめりに倒れ意識を失いました。

チームメイトが近づいて呼びかけると、反応がなく普段どおりの呼吸をしていなかったため、審判員や選手に119番通報とAEDを依頼しました。チームメイトは、以前受けた救命講習を思い出しながら心肺蘇生を実施し、AEDが到着後、メッセージに従い電気ショックを実施しました。

その後も心肺蘇生を続けていると、体動や発語がみられるようになったため心肺蘇生を中止しました。

救急隊到着時には、会話が可能になるまでに回復していました。

入浴中の事故を発見した利用客が従業員と協力して心肺蘇生を行い救命した事例

ホテルの大浴場を利用していた70歳代の男性客が湯船に沈んでいるところを他の利用客が発見しました。

意識がないことを確認すると、従業員と協力しながら、迅速な119番通報とAEDの準備を行い、胸骨圧迫も実施しました。

AEDを着装するも電気ショック必要とのメッセージはありませんでしたが、絶え間ない胸骨圧迫を継続しました。

救急隊到着時には、呼吸と脈拍が回復しており、病院での治療後、後遺症なく無事に退院しました。

食事時の窒息に対し、レストラン従業員が異物除去を行い救命した事例

80歳代の女性が、家族とレストランで食事をしていたところ、突然苦しみだし顔色が蒼くなって倒れました。その様子を目撃した従業員が駆け寄ったところ、食べ物をのどに詰まらせたようであったため、他の従業員に119番通報を依頼するとともに、直ちに異物除去を試みました。

背部叩打を連続して数回実施し、口の中を見ると、大きな肉片が確認できました。指でつまんで取り除きましたが、反応がなく普段どおりの呼吸がなかったため、胸骨圧迫を実施しました。しばらくして呼吸と手足の動きが認められるようになり、救急隊到着時には会話が可能になるまでに回復しました。